
とらいあんぐる

遊崎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とらいあんぐる

【Zコード】

Z4572K

【作者名】

遊崎

【あらすじ】

高校一年生の私、未空瑠衣はただいま困った人間関係の渦中にいた。

忘れられない元彼、私を愛してくれる先輩。
陥る修羅場に、最後は誰に辿りつく？

ヒタチヤ（福井）

初めての恋愛も。

しゃらば

わたしは未空瑠衣、高校1年生。

目の前には一人の男子がいる。

一人は、沢崎望、同級生。

私が付き合っていた男子だ。

でも、2ヶ月前に沢崎から別れてほしいと言われ、別れた。
本当は別れたくなんてなかつたけど、あの手この手で言い包められ
てしまつた。

私は沢崎が心の底から好きだつた。

悲しかつたから死ぬほど泣いて、ていつか自殺を考えることもあつ
た。

そして、もう一人。

一歳年上の、池永隼。

彼は私を理解してくれて、愛してくれる。

沢崎を忘れるために付き合つたけれど、彼のことを沢崎以上に好き
になることはできなくて、だから別れてもらつた。

隼は、そんな私に怒ることなどせず、許してくれた。

それで、私たち3人が何をしているのかと言つと。

ここは放送室で、鍵は閉まつていて、蛍光灯は仕事をしていない。

でも美味しい展開ではないのは、わかっていることだらうけど。

私は椅子に座り、二人は私の前に立ち、睨みあつている。

理由は簡単。

隼が沢崎を殴つたから。

何故、隼が沢崎を殴つたのか。

私が沢崎に振られて、私はそのことを先輩として親しかった隼に告げた。

「未空はどうしたい?」

「そりや、戻り戻したいよ・・・」

「だよなあ。」

そして私は沢崎と戻すために、手紙を出し、メールをし、電話をかけたが、全て無視を食らった。

私は精神的に追い詰められ、自殺を考えるようになつた。

「もう、死にたいよ・・・」

「そんなこと言うな。お前が死んだらみんな悲しむ。」

「わかつてゐるけど・・・でも、もう辛いんだよ・・・」

「未空、・・・」

泣きだしてしまつた私を、隼は抱きしめた。

そうして、私と隼は付き合つことになった。

でも。

私の脳裏にはいつも沢崎がチラついて、離れなかつた。
彼は愛してくれたけど、私は彼を沢崎以上に愛せなかつた。
申し訳なくて、別れて、と告げた。

私は昨日、私の思いを沢崎に伝えることに決めた。
沢崎を放送室に呼び出す。
その役を隼が買って出でてくれた。

「やつぱり、沢崎が好き。忘れられない。
昔みたいに、一緒にいたい・・・」

「はあ？ そんなの無理に決まってんだろ。俺新しい彼女いるし
図に乗つてんじゃねーよブス、お前なんか遊びだつの」

心に突き刺さる言葉だつた。

沢崎が言い捨てた瞬間、隼は沢崎を殴つていた。

「ふざけんなよ、お前！－

そして、今。

つまりは修羅場である。

うーわー、どーしょーというのが私の本音ではあるのだけれど、そ
んなことを言える空氣ではない。
未だ一人の睨みあいは続いていて、私が口を出せるよつた空氣では
ない。

しかしその状況は、隼の手によつて変えられる。

「お前のせいで、どれだけ瑠衣が傷ついたと思つてんだよーーー。」

「・・・」

隼が叫んでも、沢崎は微動だにせず、隼を睨みつけている。

「・・・もう、いいよ」

一人の視線が私に集まる。

「もう、いい。」

「瑠衣！」

私は、放送室を飛び出してしまった。

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4572k/>

とらいあんぐる

2010年10月9日22時09分発行